



株式会社 ケイズコミュニケーション
代表取締役

片野 耕司

神奈川県秦野市出身。学業修了後はガソリンスタンドに7年勤務し、友人の誘いを受けてIT業界へ。コンピュータネットワーク関連のさまざまな工事を11年ほど手掛け、エンジニアとしての経験を積む。個人で独立を考えていたところ、付き合いのあった顧客からの後押しを受け、2006年に(株)ケイズコミュニケーションを設立した。

IT 設備の悩みに技術とつながりを提供 サービス業の強みを生かした電気通信工事

ネットワーク配線やサーバー設定など、電気通信工事全般を手掛ける(株)ケイズコミュニケーション。同社の片野社長は、良質な施工を行うことはもちろん、顧客と厚い信頼関係を築くことを最重視している。その信念について、タレントの矢部みほさんが掘り下げるインタビュー。

顧客の熱いバックアップに応えて

矢部 まずは、片野社長が独立されるまでの歩みをお聞かせください。

片野 私は1990年代のちょうどITバブルが始まる頃、友人からの誘いを受けてこの業界へ足を踏み入れました。それまでは、車が好きだったこともあってガソリンスタンドに勤務していましたから、当然ITエンジニアの仕事は初めてですし、コンピューター関連のことも何も分からず…。現場で見て学んでを繰り返しながら、施工の技術の一つひとつ身に付けていきました。

矢部 その休業期間はどれくらい続いたのですか？

片野 11年ほどですね。その後、もと

もと独立願望は持っていましたし、身の回りの変化もあり、思い切って独立することにしました。ただ、最初は個人事業主として仕事をしようと思っていたところ、当時お付き合いをさせて頂いていた多くのお客様から、「個人ではなく法人として引き続き仕事を受けてほしい」とお声掛け頂きまして――。

矢部 それは素晴らしい！片野社長への信頼が厚かった証拠ですね。

片野 本当にありがたい話です。そこで、「お客様からのご期待があるならばそれに応えたい」と思い、当社の設立に至りました。

矢部 実際に独立されてみて、手応えはいかがでしたか？

片野 仕事の内容自体は変わらなかった



ので戸惑いはありませんでしたし、勤務時代に技術面はもちろん、お客様との正しい接し方などもしっかり学ばせて頂いたおかげで、スムーズに滑り出すことができました。そういった意味でも、前職でお世話になった方々には今でも心から感謝をしています。

パートナーシップを生かした対応力

矢部 では、現在メインで手掛けられている事業内容について、詳しく教えて頂けますか？

片野 当社では、法人のお客様を中心に無線LANや光ネットワークなどのコンピューターネットワークの設計・施工、サーバー構築・クライアントPCの設定、フリーアクセスフロア導入、ネットワークカメラ構築など、オフィスでの仕事を快適かつ効率的にするための電気通信工事および電気工事を幅広く手掛けています。自社での施工はもちろんのこと、独自の業界ネットワークを持っていることを生かして、お客様のお悩みを解決するノウハウやつながりをご提供できるのが当社の大きな強みです。

矢部 自社だけでは対応できない依頼があっても、すぐに周囲に応援を頼めると。そうしたパートナーとの関係があるのは心強いですね。

片野 ええ。ご依頼を頂いた段階で、「どの業者とどう連携すれば良いサービスをご提供できるか」というイメージがすぐ

に浮かぶのです。そうした対応の幅の広さも、お客様からの安心感につながっていると思います。

矢部 確かに、常に最善の対応を模索して頂けるなら、お客様も喜ばれるでしょうね。一度きりではなく、長く付き合いしてほしいと思われる方も多いのでは？

片野 そうであれば嬉しいですし、当社としては常に、お客様とは末永くお付き合いをさせて頂くつもりで接しています。職人として、その場で確実な仕事をするというのは当たり前のこと。そこからアフターフォローを含めたプラスアルファのサービスをどこまでできるかが、お客様との信頼関係を築く上で最も重要なポイントなのです。

サービス業のきめ細やかさで

矢部 社長のそうした信念は、日頃からスタッフの方たちとも共有されていらっしゃるのですか？

片野 はい。現在5名の従業員がいますが、全員がサービス業経験者であるという点も当社ならではの点です。会話1つとっても、きめ細やかな対応ができていると自負しています。

矢部 皆さんが技術を追求するエンジニアでありながら、コミュニケーションにも長けていらっしゃるというのは、他社にはない大きな特長だと思います。

片野 ありがとうございます。みんな真摯さを忘れずに仕事に臨んでくれていて、先日も施工を終えた後、お客様から「完璧な仕事をしてくれてありがとう。次もお願いします」というお言葉を頂きました。そうした時にはこの上ないやりがいを感じますし、「その期待を裏切らないように頑張らなくては」と、仕事への活力にもつながっているんです。

矢部 お話を伺っていると、社長の誠実さが伝わってきます。最後に、これらについてはいかがお考えでしょうか？

片野 私自身、特別な野心があるわけではありません。ただ、せっかく会社を立ち上げて、そこに人が集まってきてくれたのなら、みんなが健康で幸せになれるよう、仕事を楽しみながら社会貢献を続けていきたいと考えています。そうして、仲間たちがこの会社を土台にして確実にステップアップし、「片野と一緒に仕事をして良かった」と思ってくれば言うことはありません。そんな未来を実現すべく、この先も業界内でのネットワークを広げながら、お客様に喜んで頂けるサービスを提供し続けてまいります。

Guest Comment>>

矢部 みほ (タレント)

従業員の中には、片野社長の中学時代の同級生で元ホテルマンの方や、ガソリンスタンド勤務時代の先輩もいらっしゃるのか。キャリアを積まれた方が、全くの異業種に転身されるのは大きな決断だと思います。それでも、「この人と働きたい」と思わせたのは、社長の人徳があってこそだと感服しました。その絆やチームワークも強みに、これからも電気通信工事を通じて、たくさんのオフィス環境を整えていってほしいですね。

